

令和7年度 地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）の推進

揖斐川町教育委員会

1 趣 旨

「コミュニティ・スクール」は、地域住民を委員とする「学校運営協議会」を設置する学校を指す。学校と地域（以下、家庭を含む）が一体となって子供たちの育ちを支援する、“地域とともにある学校”への転換を目指すもので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成17年9月）により制度化された。

昨今では、増え続ける児童虐待への対応や、不登校児童生徒への支援など、誰一人取り残さない教育を推進することが求められている。また、子供たちを事故や犯罪から守ること、中学校の休日部活動を地域クラブへ移行することなど、学校だけでは解決が難しい課題も生じており、保護者や地域の皆さんが、今まで以上に教育の当事者となって、子供たちの健全育成に携わる体制を各学校に整えることが必要になっている。

そこで、揖斐川町では、令和7年4月から、町内すべての小中学校を「コミュニティ・スクール」に指定し、学校と地域が目標やビジョン、問題意識を共有し、共通理解に基づいた学校運営を実現することができるように考えた。

2 学校運営協議会の設置

<令和6年度>

- (1) 教員向け啓発資料を活用し、4月以降の校長会や校内会議等において、学校運営協議会の設置に伴う学校と地域の関係や役割、新たな組織体制となることへの理解を促した。
- (2) 地域住民の戸惑いや不安の払しょく等のため、令和7年1月以降、代表区長会を始め、公民館長会、青少年育成推進員定例会等を通じて、地域住民に周知と啓発を行うとともに、翌年度始めに任命予定の学校運営協議会の委員を対象に事前研修会を開催し、制度への理解や果たすべき役割等について学ぶ機会を設ける予定で準備を進めた。

<令和7年度>

月	取組み	主な内容（例）
4月	<任命書交付> 3日(木)・代表区長 9日(水)・公民館長 18日(金)・校長、P会長他	<研修> ・学校運営協議会規則及び活動計画の確認 ・会長の選出（互選） ・部会の設置（任意）
5月	第1回学校運営協議会 (各学校で開催日時を決定)	(1) 学校運営協議会規則及び活動計画の確認 (2) 会長の選出 (3) 学校運営方針等の承認 (4) 部会の設置（任意） (5) 授業参観及び意見交流 等
8月	揖斐川町学校運営協議会研修会	(1) CSマイスターによる講座 (2) 学校間の情報交流 (3) 今後の予定（各学校）
10月	第2回学校運営協議会 (各学校で開催日時を決定)	(1) 授業参観、教職員との意見交流 (2) 協議会に基づく塾議 <共通議題> 児童生徒の安全な登下校の在り方 <議題案1> 地域のボランティア活動への参画 <議題案2> 防災活動への参加
2月	第3回学校運営協議会 (各学校で開催日時を決定)	(1) 授業参観、教職員との意見交流 (2) 学校関係者評価 (3) 次年度に向けて

3 令和7年度 小中学校の学校運営協議会の実施状況 <成果○、課題▽>

(1) 学校運営の改善につながったか。

- 学校運営協議会とPTAが連携することで確実に学校運営の改善につながる。
- 学校運営協議会制度になって、委員からは一層学校の教育活動に深く入り込んだ意見をもらうことができ、年度途中の改善や次年度に向けた改善へ結び付けることができた。
- 特に、登下校の安全確保に向けて、学校だよりの配布やスクールサポーターの募集、地域づくり協議会との連携等が図られ効果があった。
- 学校の教育活動を地域の皆さんに理解していただくということや、地域の中の学校という意識を教職員がもつことができたという面で意識改革が図られた。

(2) 教育活動の充実が図られたか。

- 学校運営協議会が中心となって総合的な学習の時間に地域の伝統文化を体験する学習が始まった。
- 公民館活動や米作り等、地域行事に積極的に参加しながら学校の教育活動の充実を図った。
- 学校運営協議会中心となって、「ふるさと学習」の計画を見直し、地域に密着した活動を展開するとともに、次年度に向けて活動内容を身近なものに改善すること、地域人材を活用した教育活動を展開することなど、持続可能な取組みとしていくことを確認した。
- 学校運営協議会が主催して、児童生徒向けの熊対策の講話を実施することができた。
- 地域の活性化や地域貢献等について考える活動をしており、地域で活躍する場があることで教育活動の充実につながっている。
- ▽ 公民館祭り等においてボランティアとして参加するだけでなく、地域社会の担い手として活躍する中学生を目指して活動できるよう期待している。

(3) 地域とともにある学校づくりは促進されているか。

- 学校づくりにおける地域連携の大切さを地域の皆さんに発信できている。学校統合の話も聴かれる中、なおさら地域に誇りと愛着を持った児童生徒を育成したい。
- 地域との連携や保護者の協力の下で、ふるさとのよさを実感し、誇りと愛着をもてる児童生徒の育成に力を入れていきたい。
- ▽ 学校運営協議会は年3回しかないため、協力者を加えた拡大運営委員会を設けることや、地域づくり協議会に会長を招くなどして、地域とともにある学校づくりにつなげていく。
- ▽ 今年度は初年度のため効果があまり見えなかった。学校運営協議会の内容等を「学校だより」に掲載するなど、地域の皆さんへの啓発を行い、具体的な動きを少しずつつづけていきたい。

(4) 校長等の助けになったか。

- 本校の学校運営協議会委員は各地区の区長会長であり、学校の取組みや課題について理解をしていただけた。
- 学校運営や教育活動を支える大きな力となり、校長自身が迷うことや気になることについて意見をもらったり依頼をしたりすることができた。理解者・応援者、さらには助言者として、たいへん心強い存在となっている。
- 学校が抱えている課題を何でも話せる雰囲気があり、委員の皆さんが率直な意見を出していただけるので運営方針を決めるのに役に立った。
- 校長が地域とつながるにはとても助けになった。幼い頃から地域で見てこられた児童生徒の変容等が分かり、指導の参考になることもあった。